令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	子供、女性、障害者、アイヌの人々、外国人	対象学年・取り扱った教科等	１年生・特別活動	時数等	１

目標・人権教育のねらい	女性・障害者・外国人に関する人権課題を通して、全ての人がウェルビーイングを実現できる社会にするために持つべき意識やとるべき行動について考察する。
実施した内容	「すべての人々の幸せを願って～国際的視点から考える人権～」 外部講師（法務省舞鶴人権擁護委員）による講義 ●人権に関する国内外の法令についての解説（子どもの権利条約についても言及） ●女性、障害者（合理的配慮含む）、外国人・民族（アイヌ含む）の人権問題について説明 ●ウェルビーイングを実現するための取組についての考察
工夫した点	講師と以下の点を重視し、内容を検討した。 ●それぞれのテーマごとに動画を活用し、視聴覚面から内容が伝わりやすくした。 ※動画：「国際連合創設70周年記念　すべての人々の幸せを願って～国際的視点から考える人権～」 ●「動画の内容をまとめる」活動ではなく、「動画の中で取り上げられなかった問題を、テーマごとに自分で考える」活動とし、視野を広げる活動になるようにした。 ●テーマごとに動画視聴と思考の時間を交互に設定し、授業にメリハリをつけた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	特になし

事業成果	知識的側面：「個別の人権課題を複合的に理解している」 【生徒変容の分析】女性・障害者・外国人という個別の人権課題を学ぶことを通して、共通する視点に気付いている。特に、国連の条約の内容を踏まえ、個人としての尊厳を重んじることの普遍性に気づいている。 価値的・態度的側面：「多様性を尊重する態度を養っている」 【生徒変容の分析】女性・障害者の社会進出の促進、外国人労働者の増加等の社会背景と照らし合わせ、さまざまな立場の人々の人権が尊重されることの必要性について考えている。 技能的側面：「多様な人々のウェルビーイングを実現する社会を作ろうとする」 【生徒変容の分析】ユニバーサルデザインの視点で、特定の人でなく全ての人にとって過ごしやすい社会を作るため、積極的なコミュニケーションを通じて他者理解を深めようとしている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	２年生・特別活動	時数等	１

目標・人権教育のねらい	結婚差別についての学習を通して、同和問題を中心とするさまざまな差別を許さない態度を養う。

実施した内容	「結婚と部落差別～なぜ人権問題は起こるのか～」 ●結婚出来る要件の確認（憲法24条の規定） ●結婚と部落差別の関係についての考察（動画を用いたグループワーク） ●部落差別の現状についての解説 ●差別が起こる理由についての考察、差別を起こさないための意識付け

工夫した点	●結婚を通じて部落差別を学ぶ学習機会ではあることが大前提でありながら、結婚差別が部落差別のみに起因すると誤認させないように注意し、共通して非科学的なことがらを根拠とする差別の不当性に気付けるように配慮した。 ●結婚差別を通じて差別が起こる背景に迫ることが学習の本筋であること、性の在り方が多様であり同性婚の議論が現在進行形で進められていること（憲法24条の規定が同性婚を求める人々の障壁になっているという指摘があること）、結婚することが望ましい人生であるという価値観を強要するものではないことを、授業の導入で明確に示した。 ●部落差別が現在も強く残っている問題があることを意識させ、インターネット上の人権問題とも関連付けて、正しい理解の拡大が部落差別解消の最重要課題であることを理解させた。 ●令和７年３月に公表された「京都府人権教育・啓発推進計画に関する府民調査報告書」からデータを引用して、部落差別や結婚差別の現状を読み解かせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	地歴・公民科「公共」で、同和問題の歴史について同対審答申以降を中心に振り返り、同和問題の現状への理解を進めた。

事業成果	知識的側面：「結婚と同和問題の関係性を理解している」 【生徒変容の分析】結婚差別の現実を直視することを通して、同和問題が未だ今日的課題であることを理解している。また、不動産や就職に同和問題が悪影響を及ぼしてきた事実と、それらが非科学的であることを理解している。 価値的・態度的側面：「差別が起こされる原因について考えることがある」 【生徒変容の分析】差別が起きている現実を受け止め、差別を起こす人の心理を考察するとともに、その問題点を明らかにしている。 技能的側面：「結婚差別や同和問題をなくすための取組を考える」 【生徒変容の分析】SNSを用いて正しい情報を発信する取組を提案したり、「被差別部落の人と結婚することで差別を受けるのではないか」という恐れが差別の再生産につながっていることを指摘しようとする意志を表明している。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・取り扱った教科等	２年生・特別活動	時数等	１

目標・人権教育のねらい	ハンセン病問題を通して、感染症の患者等に対する差別や偏見を解消するとともに、社会問題としての人権課題を我が事として捉え解決しようとする共感的かつ実践的な態度を育成する。
実施した内容	「ハンセン病問題について」 ●ハンセン病の概要についての説明 ●ハンセン病問題の歴史についての説明 ●ハンセン病問題の問題点についての考察（動画の視聴） ●隔離政策等が現代に与える影響の考察
工夫した点	●ハンセン病問題が誤解によって生じた問題であることを強調し、人権問題の解決に正しい理解が不可欠であることを理解させる。 ●「らい予防法」という法律で国策として隔離政策や無らい県運動が展開され差別が拡大したことを踏まえ、主権者としての判断や行動が人権の尊重に大きく影響することを理解させるとともに、社会の一員として必要な行動を考察させる。 ●熊本の「ホテル宿泊拒否事件」とそれに誘発された当事者へのバッシングを題材にし、当事者の多くが今も残る差別によって社会復帰が困難である現状から、ハンセン病問題が過去の話ではなく現代にも課題を残していることを理解させる。 ●国立ハンセン病資料館のYouTube動画を活用し、当事者の話を聞く機会を設けた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	地歴・公民科「公共」の「公共の福祉」の学習において、コロナ差別も引き合いに出しながら、感染症流行時の行動制限の正当性について検討した。

事業成果	知識的側面：「ハンセン病の概要について正しく理解する」 【生徒変容の分析】ハンセン病が遺伝せず、感染力が弱いことを正しく理解している。また、無らい県運動や隔離政策が誤解によって拡大した歴史を理解し、それらの誤解に対する指摘ができる。 価値的・態度的側面：「ハンセン病問題が未だに解決していないことを認識している」 【生徒変容の分析】誤解による人権問題であるということが明らかになった現代においても、未だにハンセン病療養所から出られない人々がいることを念頭に、国策として進めた隔離政策などの影響が根強いことを意識している。 技能的側面：「ハンセン病問題を解決するための取組を考える」 【生徒変容の分析】ハンセン病に対する正しい認識を広めるため、誤解が拡散される前にSNS等を活用して正しい知識を広めようと考える姿勢が見受けられる。また、コロナ差別を引き合いに出し、社会がハンセン病問題から十分に教訓を得ていない点を指摘している。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	インターネットによる人権問題	対象学年・取り扱った教科等	２学年・特別活動	時数等	１

目標・人権教育のねらい	スマートフォンやＳＮＳの使い方を振り返り、インターネット社会の特徴を明確にして、ネット上で人権侵害をしない姿勢を養う。

実施した内容	「インターネット・ＳＮＳの使い方から学ぶ」 ●日ごろのインターネット・ＳＮＳの使い方の振り返り ●ＳＮＳトラブルについてのトラブルシューティング（ケーススタディ） ●フィルターバブルとエコーチェンバーの説明 ●ＳＮＳの使い方の注意点の明示

工夫した点	●ＳＮＳのトラブルに特化した内容とした。 ●生徒にとって特に身近で頻発する可能性がある分野であることを念頭に、ケーススタディやグループワークを中心に据えた取組とした。その中でも、自身の行動や思考を振り返ることを重視した。 ●現代が「切り取りの時代」であることを指摘しつつ、さまざまな一次情報に基づき思考し、判断する姿勢を求めた。 ●ネット上でアップしたものが半永久的に残り続けることを指摘し、個人の尊厳を損なう行為や行動を行わないことを強調した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	地歴・公民科「公共」で、プライバシー権や個人情報保護を学習したことを前提に人権学習を進めた。

事業成果	知識的側面：「インターネット上の人権問題の特徴を理解している」 【生徒変容の分析】エコーチェンバーやフィルターバブルについて、概念と原因を構造的に理解している。また、いわゆるデジタルタトゥーの危険性を実感し、写真の無断掲載など、他者の尊厳を損なう行為を問題視している。 価値的・態度的側面：「自らのインターネットの使い方を見直している」 【生徒変容の分析】インターネットを利用するうえで個人情報を軽率に公開する行動を見直し、自分自身もトラブルに巻き込まれないように対面でのコミュニケーションの重要性を再認識している。 技能的側面：「インターネット上の人権問題を指摘している」 【生徒変容の分析】自信や他者のインターネットの使い方を見直したうえで、適切なネットの利用について、身近な人にも働きかけようとしている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	３学年・特別活動	時数等	２

目標・人権教育のねらい	性の多様性についての理解を深め、多様性と調和の関係性にもとづく社会を築くための姿勢を養う。

実施した内容	「ＬＧＢＴの現状と未来」 外部講師による講演 ●ＬＧＢＴＱやＳＯＧＩの概念についての説明 ●講師自身の生い立ち・経験についての語り ●ＬＧＢＴＱに関する日本社会の課題についての考察

工夫した点	●講演会ながら、適宜講師がグループワークを設定した。 ●一見すると本題とは無関係に見える身近な話題を取り上げ、自らの思考の癖やアンコンシャス・バイアスに気付かせる設問が複数提示された。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	２年次履修の公共（地歴・公民科）で学んだ平等の概念（形式的平等と実質的平等）について触れ、社会として人権課題に取り組む姿勢の必要性を理解させた。

事業成果	知識的側面：「性の多様性についての理解を深めている」 【生徒変容の分析】ＬＧＢＴＱやＳＯＧＩについて、その概念を理解している。 また、アウティングの危険性等にも理解を深めている。 価値的・態度的側面：「性の多様性を認められる社会の実現について考えることができる」 【生徒変容の分析】特に日本社会で性の多様性への理解が弱いことを念頭に、かつ講師の経験を参考に、性の多様性が社会全体で認められるための方策を考えることができる。 技能的側面：「性に関するステレオタイプに惑わされない」 【生徒変容の分析】「男らしさ」「女らしさ」といった固定的な捉え方ではなく、個人を尊重する姿勢を持ち、性の在り方に悩む人に出会った際に支援的な姿勢を取ることができるよう意識をはぐくんでいる。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	その他（戦争の抑留者）	対象学年・取り扱った教科等	２年生・特別活動	時数等	２

目標・人権教育のねらい	戦争で人権侵害を受けた人々に対する共感的理解を深め、人権が尊重される平和な社会を構築するための実践的態度を養う。

実施した内容	「引揚の歴史と人権～戦争を語り継ぐ意義とは～」 ●舞鶴引揚記念館学芸員による、引揚の歴史についての講義 ●同記念館で「学生語り部」として活動する生徒による語り部活動の実演 ●「学生語り部」生徒や同学芸員を中心としたパネルディスカッション ●全生徒による語り部活動のプチ実践

工夫した点	●「学生語り部」として活躍する生徒の、実際の活動の様子を披露する場を設け、他の生徒の刺激になるようにした。 ●総合的な探究の時間で引揚を学習している「学生語り部」の生徒や学芸員がゲストスピーカーとして参加し、戦争を語り継ぐ難しさや平和の在り方などについてパネルディスカッションを行うことで、平和や戦争についてより身近に考えられるようにした。 ●語り部活動の実演やパネルディスカッション、自身で考察した「戦争を語り継ぐ意義と人権の関わり」を踏まえ、２分間で引揚について全く知らない人に説明をするロールプレイイングをグループで行い、互いに評価し合った。 ●「戦争はだめだ」という考察に終始しないように、「戦争によってどのような人権が侵されうるのか」という点に重点を置いた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	総合的な探究の時間で引揚について取り組んでいるチームの生徒が、「学生語り部」の生徒や学芸員への質問を考え、その回答を踏まえ「次世代による戦争体験の継承」の手段を考案した。また、これらの人権学習に関する取組を、総合的な探究の時間の発表会で報告した。

事業成果	知識的側面：「引揚の歴史や概要を理解している」 【生徒変容の分析】人権学習を通して「引揚についての理解が深まった」と感じる生徒が89%となった。そのうち、特にシベリア抑留と引揚を区別して理解できるようになった生徒が大きく増えている。また、舞鶴の歴史遺産として、引揚の重要性を認識できている。 価値的・態度的側面：「人権の尊重と平和の関連を考察している」 【生徒変容の分析】些細なことと捉えていた日常の風景も、平和であるからこそ実現していると実感している。また、世界各地で日常が脅かされている現状や抑留者の体験から、戦争が人権をどのように損なうのか具体的に考察している。 技能的側面：「引揚の歴史を語り継ぎ、平和の体現者となろうとする」 【生徒変容の分析】引揚の体験者が少なくなり、「次世代による継承」を実践しようとする。特に、舞鶴が引揚港を有するまちとして、抑留者の尊厳回復に寄与した地域であったことを語れるようになっている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立東舞鶴高等学校

人権課題	その他（いじめ）	対象学年・取り扱った教科等	１年生・特別活動	時数等	１

目標・人権教育のねらい	いじめをしない・許さない姿勢を養うとともに、さまざまな人権問題を我が事として捉える意識を身につけさせる。
実施した内容	「いじめから考える人権～小さな攻撃で人を苦しめないために～」 ●いじめの構造や定義についての確認 ●いじめとアンコンシャス・バイアスの関係性の考察 ●アンコンシャス・バイアスに対する理解 ●アンコンシャス・バイアスで人を傷つけないための意識付け
工夫した点	●動画や文章を通して、アンコンシャス・バイアスが身の回りに多く存在し、多くの人々がアンコンシャス・バイアスにとらわれて生活しているということを自覚できるようにした。そのため、具体的で身近な事例を多く挙げた（例：血液型、性別役割分業）。 ●「ヘイトのピラミッド」を示し、一見「些細なこと」とうけとめられがちな事象が、最終的には人の命を侵しかねないことを理解させ、それに基づいてさまざまな人権問題が偏見や誤解といった共通項で引き起こされていることを意識させた。 ●「些細なこと」と決めつけて問題視されにくい血液型に関するものから扱い、コロナ差別や東日本大震災の被災者への偏見についての事象を後半で扱うことで、無自覚の偏見が重大な事態を招き得ることを段階的に認識させ、問題の深刻性を理解させた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	特になし

事業成果	知識的側面：「いじめの構造について理解している」 【生徒変容の分析】日ごろの深く考えずに行っている言動が、いじめを含むさまざまな人権問題の根底にあることを理解している。特に「～のくせに」「～だから」という決めつけで人を判断することが危険であることを意識している。 価値的・態度的側面：「アンコンシャス・バイアスにとらわれないように意識している」 【生徒変容の分析】決めつけで行動しないこと、そしてコミュニケーションをとってみないと他者のことは理解できないということに対する認識が深まっている。今まで「～のくせに」と思ってきたことが、他者の個性を尊重しない態度となっていたことに気づいている。自分自身のことも客観的に見つめ直す姿勢も見受けられる。 技能的側面：「個性を尊重して他者と関わろうとする」 【生徒変容の分析】個人・個性を見た言動をすることを重視する意見が目立つ。一瞬偏見が頭によぎったとしても、その悪影響を考慮し、言動に移さない冷静な態度を身につけようとする姿勢も見られる。